

令和6年度岩手県立住田高等学校 第3回学校運営会議 会議録

令和7年2月19日(水) 17:45~18:50 13名参加
住田町農林会館多目的ホール

(1) 開会のことば(邑サポート代表 奈良朋彦副会長)

(2) 会長あいさつ(住田町教育委員会教育長 松高正俊会長)

これから学校からの情報提供を受け、来年度方針に関して皆さんからの様々な観点による意見を募り、来年度の学校経営に生かすためにこの会がある。住田高校の魅力化がより良く進められること、地域にとっても住田高校がよい学校となるようご意見を頂きたい。

(3) 校長あいさつ(住田高校 伊藤校長)

本日の参加、誠にありがとうございます。本校はこれまで、地域からのご支援を頂きながら、地域にとってより良い学校、教育課程づくりを目指して取り組んできた。特に今年度は研究開発学校指定のまとめの年として、地域創造学での学びを広く校内外に発信してきた。多大なる評価、応援の声を頂くことが出来たこと感謝いたします。生徒たちは自分の「好き」なことから地域の課題を見出し、自分の力を磨いてきた。ここまでのご協力に感謝したい。本校の目指すべきものは地域とのつながりと地域の方々との対話による学校運営であると考えている。今後、教育活動の充実発展に取り組んでいくためにも、是非地域の皆さんからの率直なお声を聴かせて欲しい。この場はさらなる魅力化を図る貴重な機会であると捉えている。引き続きお力添えいただきたい。

(4) 報告(進行 住田町教育委員会教育長 松高正俊会長)

ア 進路状況について

就職・進学希望者ともに進路先が決定している。昨年に続き、岩手県警合格者がでた。

(質問)

- ・(住田中学校 遠山校長) 住田町に貢献したいと考えている子どもの割合はどれほどか。
⇒就職者の内訳として管内企業に就職している生徒が毎年一定数(就職者のうち4割程度)出ている。
- ・(住田町教育委員会教育長 松高正俊会長) 就職、進学の割合は例年通りか。
⇒今年度の割合は半々というところ。この割合は例年通りである。

イ いじめアンケート

いじめと認知した事例(SNSでの誹謗・中傷や嫌なことをされる)について説明

(意見)

- ・(住田中学校 遠山校長) 中学生の調査では、一日5時間以上スマホを見るという生徒が26%以上いる。スマホゲームやSNSに費やす時間が増えており危機感を覚える。小学校は20時まで、中学生は21時まで使用可、それ以降は居間に置く等の家庭での指導をお願いしているところ。
⇒高校でもスマホに依存している生徒が増加中。
- ・(社会福祉協議会 紺野事務局長) 大人でも意味を調べたりするために、会議中でもスマホをいじったりすることがある。非常に便利なものだから手放せなくなっている。そんな社会になっているため、子どもたちの使用についてもゆるくなっている気がする。
- ・(邑サポート代表 奈良朋彦副会長) 住高ハウスにいる教育コーディネーターさんたちは、生徒にとってナナメの関係にある大人。そうした立場からだと、生徒たちのいじめに関する情報が得られやすいのではないかと。早期発見につなげていけるといい。

ウ 学校評価アンケート

学校経営計画達成に向けた取組方針5項目について、生徒・保護者アンケートから得られた結果について報告。5項目全てにおいて90%以上の結果が得られ、今年度の目標値を超えることが出来た。

(ご意見)

- ・(住田町教育委員会教育長 松高会長) いじめの問題に適切に対応していると答えた生徒が98.2%という結果は、生徒たちも先生方がよくやってくれていると感じているということ。素晴らしい結果であったと思う。
- ・(同窓会 千葉会長) 普段、生徒たちを見ている先生方、3人の教育コーディネーターさんたちの人間性や接し方が、こうした高い評価につながっていると感じた。成績など数字だけを見る教育の時代は終わった。住田高校はこれからの教育を進めている学校である。

(5) 協議(進行 住田町教育委員会教育長 松高会長)

ア 学校評価報告書(案)について

年度当初に計画した取組方針達成指標について、生徒・保護者・教員からのアンケートを基にして自己評価したもの。こうした自己評価に客観性や透明性を持たせるため、学校関係者の皆様からのご意見・評価を頂き報告書としてまとめたい。

(ご意見等)

- ・(社会福祉協議会 紺野事務局長) ボランティア活動に参加してくれた住高生を見ていると、本気で取り組む姿が見えてありがたかった。一生懸命な姿勢から学校での様子も見えた気がした。自分からボランティア団体を立ち上げようとしている生徒もいる。これを支える周りの大人が傍にいるという証拠である。これからも中学校とも連携しながらボランティア活動に参加してもらいたい。
- ・(邑サポート代表 奈良副会長) かなりメディアに取り上げてもらっていることもあってPRできている。どこに行っても「住高すごいね」「キラキラしている」との声も聞くことが出来た。中身が伴ったことだと思うので、特色ある学校づくりの取組の成果が出ているのではないかと思う。

(6) 意見交換・質疑応答

- ・(元PTA会長 水野様) 住田高の課題等は何かないか。

⇒交通の便が悪い。電車・バスの接続が悪く、入学したいが通えないという声もある。住田らしさを出していくために何を打ち出すか(教育課程等)が課題なので、人的支援をこれからもお願いしたい。

- ・(世田米地区公民館 菅沼館長) 生徒たちが臆せずチャレンジしている姿が素晴らしい。コーディネーターさんのおかげである。高校からリスタートする機会が持てる学校であり続けて欲しい。
- ・(住田高校 伊藤校長) 次年度は、パソコン部がプログラミングなどを教えに小中学校に行くなどの交流を計画している。社会福祉協議会とのボランティア活動や公民館での交流等も考えている。ご協力願いたい。
- ・(同窓会 千葉会長) 住田高校に通って大きく成長し、自分らしさを磨いた生徒がいること。地域創造学では体験を通じて自己を発見、研鑽する機会があったこと。京都大学での生徒の発表で、彼らの潜在的な力は計り知れないと感じたこと。魅力的な学校であり続けることが存続の鍵である。キャッチコピー「わたしは、宇宙にただひとり」の信念をもって進んで行って欲しい。
- ・(住田町教育委員会教育長 松高会長) 高校入試では管内学校すべてが定員割れを起こしている。そんななかで住田高校への入学者をどう増やしていくかが課題。保護者の捉え方を変えるため、魅力をいかにして伝えていくか。
- ・(住田中学校 遠山校長) 住田高校の地域に果たす役割を考えてみれば普通科にこだわる必要はない。通信制進学者が増えている時代であるから、もっと広く捉えて気仙地区や岩手県内でどういった学校であるべきかを考えていってもらいたい。ネーミングも大切だと思う。先ほど話のあったプログラミングなど中学校に高校生が来て指導してもらえる機会はこちらとしてもありがたい。

(7) その他

(8) 閉会のことば(邑サポート代表 奈良朋彦副会長)